

1 事業主体・エリア概要

事業主体等
 【エリアプラットフォーム】 古川橋駅周辺エリアプラットフォーム検討会
 【申請予定者(代表者)】 門真市幸福町・垣内町・中町まちづくり協議会会長
 【交付申請額】 9,900千円(全額国費対象)

エリア設定
 【エリア設定の考え方】
 門真市都市計画マスタープラン: 魅力と賑わいのある景観を形成する「中心拠点」
 門真市立地適正化計画: 古川橋駅から半径500mの区域に生涯学習機能を誘導
 土地区画整理事業: 古川橋駅を中心に、これまでに民主導型の土地区画整理事業を実施

古川橋駅を中心に、これまでの土地区画整理事業区域を包含する半径500mのエリアを設定

【エリア図】

エリアの現状
 【エリアの強み】
 ・交通利便性が高く、地形的に平坦で徒歩や自転車による移動がしやすい
 ・運転免許試験場が隣接しており、多くの方が本エリアを往来する
 ・「人や地域が温かく活気がある」「人情があふれる」など人の魅力に関するイメージが強い
 ・土地区画整理事業による都市基盤施設の整備や学校跡地の市有地活用が可能

【エリアの弱み】
 ・高度経済成長期の急激な人口増加に伴い、危険な密集市街地が形成されている
 ・少子高齢化による労働力や消費の縮小による地域経済の衰退が懸念
 ・シャッター通り化した商店街や廃校となった中学校跡地があり、賑わいが失われている
 ・駅南側の区画整理事業で大型商業施設等が建設され30年以上経過し、まちの衰退が進行

【エリア内のまちづくりの取組概要】
 ・古川橋駅北側では、旧中学校跡地を有効活用し、複合的な都市機能や生涯学習機能及び交流広場機能が一体となった魅力と賑わいのあるまちづくりの実現を図るため、幸福東土地区画整理事業を展開している
 ・エリアの西側では、小中学校等の再編により生み出される市有地を活用し、約2haの防災機能を有する公園整備や市立総合体育館を設置し、門真市の防災拠点整備を進めている
 ・まちづくり協議会が幸福町・中町においてまちづくりコンセプトをまとめており、これに基づいて官民連携で継続的にまちづくりに取り組んでいる
 ・古川橋駅を中心とした地域イベント「ラプリーフェスタ古川橋」や「イルミネーション」はまちづくり協議会のメンバーを含む関係者や関係団体が主体的に参画することにより「まちのネットワーク構築の場」となっている

・エリアの活性化を図り、将来に渡ってまちの持続可能性を高めるためには、駅前を開発を契機に内外から人が集まる賑わいや交流を創出し、その効果を周辺地域に波及させていくことが重要
 ・次世代のまちの担い手となる若手や、地域社会の活力となる子ども・ファミリー層を獲得し、ソーシャルキャピタルを再構築し、高齢者を含めた多世代が共存する、北河内を代表する住みたいまち、住み続けたいまちとして魅力を高めていくことを目指す

2 未来ビジョンの策定方針

策定目的・目指す将来像
 【策定目的】
 土地区画整理事業で整備された広場・道路等の利活用及び幸福東土地区画整理事業を契機としたまちの賑わいと交流の創出を、まちづくり協議会が中心となりながら、より多くの関係者や新たな担い手を巻き込み、官民連携で取り組んでいくため、民間と行政が参画するプラットフォームを構築し、本エリアのまちの将来イメージを共有する未来ビジョンを策定

【目指す将来像の方向性】
 ・整備予定の(仮称)市立生涯学習複合施設や交流広場並びに古川橋駅周辺の土地区画整理事業により整備された駅前広場や都市計画道路等の公共空間を最大限に活用し、子どもから中高生、大人、お年寄りまで、近隣及び広域から集まる多様な人や団体が交流し繋がることで、新しい学びやコミュニティの創出、まちの新たな価値の創造を目指す
 ・特に、まちの将来を担う子ども達を主役に、子ども達のやりたいこと、まちに対する働きかけを実現する仕組み「子どもエリマネチーム」を運営することで、子ども達に他者を受容する力と自律性を育みながら、子育て世帯の支えともなり、エリア全体としても子ども達の自由な発想や活動に活力を得て、持続性の高いエリマネ管理体制を構築する
 ・さらにこの動きと連動し、駅前を取り巻く密集市街地において民間投資を呼び込み、街路や民間空地など官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へと転換し、エリマネーションへとつなげていく

目指す将来像を実現するための施策

【施策① 子ども・高齢者がまちなかで楽しく共生】
 ・交流広場など駅前の公共空間を生かして子どもたちの居場所をまちなかにつくり、子ども達の多様な感性を育むとともに、高齢者の生きがいづくり、地元企業の支援による子育てと介護の負担緩和を目指す
 事例: 子どもが放課後を安心して楽しく過ごせるまちの自由学童

【施策② 新しい気軽なつながりの仕掛け】
 ・地域の活動や大人のクラブ活動を社会活動に広げる
 ・穏やかな管理で子どもの行動をまち全体で見守る
 事例: 多様なまちの人が気軽につながる活動
 小さなお店による賑わいと子どもの見守り

【施策③ 子どもエリマネセンター(アーバンデザインセンター)】
 ・交流広場の管理棟など駅前のパブリックスペースを生かして子どもエリマネチームの活動拠点となるセンターを設置し、都市の魅力・情報を子どもの目線で市民・市外へ発信し、シビックプライドを育む
 事例: 子どもエリマネセンター
 子どもがまちを通して社会関係を学ぶ仕組みや仕掛け
 雨天対応の子どもの遊び場

【施策④ グローバルな視点を踏まえた効果検証】
 ・本エリアでの実践が蓄積され、その効果がまちや企業に還元される循環の仕組み
 事例: グローバルな視点から子どもエリマネの検証と実践を活かした研究の蓄積

【施策⑤ 「居心地がよく歩きたくなる」空間の整備】
 ・車中心から人中心の空間への転換を目指して、既に土地区画整理事業で整備された街路、公園・広場等の既存ストックを修復、利活用する
 事例: まちなかウォーカブル推進事業

実施体制
 (仮称)古川橋駅周辺地区まちなか再生推進協議会において、エリアの目指す将来像とそれを実現するための施策を共有し、施策の中心的な実施主体となる都市再生推進法人をバックアップする官民連携体制を構築

3 検討体制・検討プロセス

検討体制
 ・当面の間、門真市幸福町・垣内町・中町まちづくり協議会と行政(門真市)とで設立した「古川橋駅周辺エリアプラットフォーム検討会」で、本会の実施体制の強化・再構築及び未来ビジョンの調査検討を進める
 ・調査検討にあたっては、専門家からなる「専門家デザイン会議」から専門的知見からのアドバイスを得たり、市民フォーラムで広く関係者と意見交換を行うなど、別途議論の場を設けて、多様な視点から検討を進めることが可能な体制とする
 ・「古川橋駅周辺エリアプラットフォーム検討会」は、今後、実施体制を強化し「(仮称)古川橋駅周辺地区まちなか再生推進協議会」へと再構築し、古川橋駅を中心としたまちの将来像を未来ビジョンを策定

検討・策定プロセス

【1 エリアプラットフォームの実施体制の強化・再構築】
 ① 関係者ヒアリング調査(20団体程度)
 ② 専門家デザイン会議の開催(2回程度)
 ③ 古川橋駅周辺エリアプラットフォーム検討会の開催(3回程度)
 ④ 市民フォーラムの開催(1回)

【2 未来ビジョンの新規策定】
 ① 地域の現状調査・分析
 ② 市民ヒアリング調査
 ③ 事例調査(3か所程度)
 ④ 未来ビジョンの検討

上記の検討結果を踏まえ、地域の特性を踏まえた目指す将来像をまとめ、魅力的でわかりやすいビジュアルとして示す

令和2年度及び今後のスケジュール

【R2年度】

項目	時期											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
■補助金交付申請												
(1) エリアプラットフォームの構築												
①関係者ヒアリング調査												
②専門家デザイン会議の開催												
③エリアプラットフォーム検討会の開催												
④市民フォーラムの開催												
(2) 未来ビジョンの新規策定												
①地域の現状調査・分析												
②市民ヒアリング調査												
③事例調査												
④未来ビジョンの検討												

【R3年度】 エリアプラットフォームの構築・未来ビジョンの新規策定
 【R4年度】 社会実験の実施・市民や関係者へのプロモーション活動・都市再生推進法人の設立
 【R5年度】 居心地がよく歩きたくなる空間整備等の開始
 【R6年度以降】 交流広場を活用した官民連携によるエリマネーション